

2022 年度第 4 回情報教育研究委員会データサイエンス分科会議事概要

I. 日 時：令和 5 年 3 月 22 日（水）16：00～17：30

II. 場 所：Zoom 会議室

III. 出席者：渡辺主査、松尾委員、今泉委員、後藤委員、土方委員、大原トビイサ、辻トビイサ
（事務局）井端事務局長、野本

IV. 議事内容

1. 2023 年度の分科会で、データサイエンス・AI 教育を支援する取組みの方向性について検討を進め、委員から以下のような意見があった。

- ・ データサイエンスの取組みについて宮崎県での大会があり、プラス認定の意欲的な大学の展開を紹介してはどうか。プラスは、人数要件もあり、他学科の受講が少ない傾向から学生が履修するなど参考となる点が聞きたいのではないかな。
- ・ リテラシーレベルは、全学での取組みとなるため、学部・学科単位で先に認定を進めるという方向も考えられるのではないかな。
- ・ ChatGPT の可能性や利用について問題となっており、教育でどのように取り扱うべきか求められている。AI を教育する点も含まれており、情報の基礎的なアルゴリズムに関係し、楽しさを味わせる方向に向かってしまう危険性を感じ、使う側が理解しておく必要がある。オープンなつくりとなっており、解らなくても答えを提示して完璧ではなく、正しく理解・判断ができるように教育する必要がある。
- ・ プラス認定の良いところは、特長性を出している点ではないかな。
- ・ 認定は、全国 700 大学の内、250 校が認定され、400 校程度が残っており、底上げのためにリテラシーレベル向けの内容も必要ではないかな。申請のノウハウを意図してワークショップを開いてはどうか、学内連携が説明できると良いと考える。
- ・ 認定を取った大学でリテラシーレベルと応用基礎レベルの例を紹介してはどうか。
- ・ 保育学部など個別の課題でカリキュラムを作成した例もあり、カリキュラム申請への工夫を紹介してはどうか。
- ・ 例えば、学内連携など上手くいっていない大学の状況を話してもらうことではどうか。
- ・ 次年度の取組みは、9 月のイノベーション大会で説明とパネルディスカッションを行い、数理・データサイエンス・AI 教育プログラムの重要性、組立て、課題を考える方向性とした。

V. 今後のスケジュール

今回の分科会は 6 月ごろに開催し、教育イノベーション大会で 1.5 時間のワークショップ構成を検討することになっている。